

専修大学スポーツ研究所50周年記念

専修大学スポーツ研究所シンポジウム2019 日本基準から世界基準へ

入場無料



Ono Hitoshi
大野 均

Maehara Masahiro
前原 正浩

Kukidome Takeshi
久木留 毅

Ishijima Yusuke
石島 雄介

2019年 11月21日 (木) 12:40開場

■日時・場所 2019年11月21日(木)13:05~16:20 (3・4限目) 専修大学生田キャンパス10301教室

■内容

<第1部> 講演&対談 13:10~14:30

「ハイパフォーマンススポーツの先には何が見えるのか」

久木留 毅氏 (ハイパフォーマンススポーツセンター-国立スポーツ科学センター長、専修大学文学部教授、スポーツ庁参与)

「日本卓球におけるハイパフォーマンススポーツへの取り組みの成果と未来」

前原正浩氏 (公益財団法人日本卓球協会副会長、国際卓球連盟副会長)

<第2部> シンポジウム 15:00~16:20 「日本基準」から「世界基準」へ

大野 均氏 (元ラグビー日本代表、東芝ブレイブルーパス)

石島 雄介氏 (インドアバレーボール北京オリンピック日本代表、ビーチバレーボール強化指定選手)

久木留 毅氏、前原正浩氏 (1部より)

主催：専修大学スポーツ研究所

協力：(株)大塚製薬、専修大学文学部ジャーナリズム学科

専修大学スポーツ研究所は、2019年度より公益財団法人日本バレーボール協会と連携協定を締結しています

問い合わせ：sports@isc.senshu-u.ac.jp 044-911-1032



司会：長野 智子

専修大学文学部
ジャーナリズム学科特任教授



専修大学

大塚製薬

専修大学スポーツ研究所50周年記念
専修大学スポーツ研究所公開シンポジウム2019

[スポーツレガシーシリーズ VOL.12]
「日本基準」から「世界基準」へ

日本において2019年にはラグビーワールドカップが、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催される。これらの国際的スポーツイベントの開催をも一つの機運となり、日本スポーツ界の取り組みは激変をしている。国内最上位の選手であれば日本代表のアスリートとして国際大会に出場できた時代から、世界トップレベルのパフォーマンスを発揮でき得るアスリートの育成が始まっている。つまり、アスリートの育成は「日本基準」から「世界基準」となった。

世界基準のアスリートの育成のキーワードは「ハイパフォーマンス」である。スポーツにおける「ハイパフォーマンス」とは、「世界最高峰の舞台において求められる競技力」を意味する。近年のオリンピック・パラリンピックをはじめとする国際競技大会での競技レベルは目覚ましい進化を遂げているが、その背景には各国によるスポーツ医・科学、情報、マテリアル開発などのサポートの進化がある。

日本においては2016年にハイパフォーマンスセンターが設置され、ハイパフォーマンススポーツへの取り組みの強化が進み、そして2020年のオリンピック・パラリンピックを迎えようとしている。本シンポジウムでは、「日本基準」から「世界基準」へをテーマに、国内外のスポーツにおけるハイパフォーマンススポーツの取り組みと、その取り組みがもたらす日本スポーツの未来についてディスカッションする。



前原 正浩 (まえはら まさひろ) 公益財団法人日本卓球協会副会長、国際卓球連盟副会長

明治大学卒業、筑波大学大学院修士課程修了(体育研究科スポーツ健康システム マネジメント専攻)。協和醸酵工業(現協和キリン)に所属し、全日本選手権男子シングルス優勝や日本代表として活躍。現役引退後はソウル、アトランタ、シドニーの3度のオリンピックで日本代表監督を務めた後、日本卓球協会の強化本部長、専務理事を歴任。全日本選手権演出プロジェクトチームを発足させるなど、「魅せる全日本」を意識した運営を実現させる。現在、日本卓球協会副会長、国際卓球連盟副会長、日本オリンピック委員会評議員・ナショナルコーチアカデミー事業ディレクターを務める。



大野 均 (おおの ひとし) ラグビーワールドカップ日本代表 (2007、2011、2015)、東芝ブレイブルーパス

1978年5月6日福島県出身。192cm 105kg。日本大学工学部でラグビーを始めた異才。プレーは、体格からも想像もつかない圧倒的なフィットネスとスピードが魅力。2005年にはセブンス代表に選出されるなど、ランニングスキルにも優れた闘志溢れるプレーヤー。ラグビーワールドカップには2007年度、2011年度、2015年度に選出。また2015年12月にはスーパーラグビーの日本チームサンウルブズの2016年スコッドに所属。ポジションは、ロック (LO)。日本代表キャップは98で歴代トップを誇る。



石島 雄介 (いしじま ゆうすけ) インドアバレーボール北京オリンピック日本代表、ビーチバレーボール強化指定選手

1984年1月9日埼玉県出身。197cm 102kg。第32回春の高校バレーで優勝。筑波大学では主将を務め、2005年に大学4冠に貢献。2005年からVリーグ堺ブレイザーズでプレーし、チームの優勝に貢献。新人賞を受賞。2008年には、北京オリンピック出場。2016年にビーチバレーボールに転向。現在は、トヨタ自動車ビーチバレーボール部に所属しプレイしている。受賞歴Vプレミアリーグ新人賞、ワールドカップ新人賞、Vプレミアリーグベスト6など多数。



久木留 毅 (くきどめ たけし) ハイパフォーマンススポーツセンター国立スポーツ科学センター長、専修大学文学部教授、スポーツ庁参与

専修大学卒業、筑波大学大学院体育研究科修了(体育学修士、スポーツ医学博士)、法政大学大学院政策科学専攻修了(政策科学修士)、英国ラフバラ大学客員研究員。日本レスリング協会特定理事、元ナショナルチームコーチ、テクニカルディレクター等を歴任。2015年10月1日より、文部科学省および経済産業省のクロスアポイント制度にて日本スポーツ振興センターに在籍出向中。



長野智子 (ながの ともこ) 専修大学文学部ジャーナリズム学科特任教授、キャスター

1985年株式会社フジテレビジョンアナウンス部に入社。1990年結婚退職後、フリーに。1995年の秋より、渡米。ニューヨーク大学・大学院において「メディア環境学」を専攻し、人間あるいは歴史に対して及ぼすメディアの影響について研究。1999年5月修士課程を修了。2000年4月より『ザ・スクープ』(テレビ朝日系)のキャスターとなる。「朝まで生テレビ!」「ザ・スクープスペシャル」「報道ステーション」のキャスターなどを経て、現在は『サンデーステーション』(同)のメインキャスターに。「ハフポスト日本版」編集主幹、国連UNHCR協会報道ディレクターを務める。

日時：令和元年11月21日(木) 3、4限 13:05~16:30 (延長あり)
場所：専修大学生田校舎10号館10301教室 (参加費無料)
向ヶ丘遊園駅(小田急線)北口よりバスで約10分
問い合わせ：スポーツ研究所 (sports@isc.senshu-u.ac.jp/044-911-1032)



大塚製薬